

2014年春号 研究室だより

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。同窓会員の皆様に、2013年度の西洋史学研究室の近況をご報告させていただきます。

2013年度の西洋史学研究室では、3月の神寶秀夫教授のご退職の後、山内昭人教授（国際史）、岡崎敦教授（フランス中世史）の2人の教員のもと、学部生12人、院生4人、研究生1名の総勢16人が日々研究に励んでいます。非常勤講師としては、福岡大学の星乃治彦先生（「ドイツ現代史に関する基本的論争史」）、九州産業大学の水野祥子先生（「近現代イギリス文化史」）に演習をご担当いただいています。11月には、本研究室の卒業生でもある神戸大学の小山啓子先生に、「近世フランスの社会と政治文化」と題する集中講義を講じていただきました。小山先生には、5日間にわたり、受講生と密接に交流いただき、かつての西洋史学研究室の伝統を繋いでくださいました。

大学院では、博士後期課程3年の法花津晃君は、2012年夏のフランス帰国以来、博士論文作成に専念しています。昨年度からは、あらたに発足した九州西洋史学会若手部会の副会長としても活躍しています。同じく博士後期課程3年の大浜聖香子さんは、2013年9月に、1年間のベルギー留学を終えて、無事帰国しました。博士後期課程1年の高津智子さんは、日本学術振興会特別研究員として活躍中です。博士後期課程の院生は、論文や報告を量産しながら、博論準備に励む毎日で、今後が期待されます。また、2013年10月より、ヴァチカン文書館附属ヴァチカン古文書学校アーカイブズ学専攻を修了された柳町茂一氏が、岡崎教授のもと、研究生として、ヨーロッパ中近世文書論をテーマに研究を開始されました。

学部学生は、5名の4年生のうち、2013年度は3名の学生が卒論を提出予定です。齋藤毅君がラトヴィヤ現代史、赤塚翼君がイングランド中世大学史、松木美加さんがドイツ現代環境問題をテーマに、現在それぞれ奮闘中です。

大学院生の海外留学が続いていますが、2013年度は学部生も交換留学に2名出発しました。4年生の二階堂翔太君はミュンヘン大学、3年生の佐藤志織さんはストラスブール大学での留学を、それぞれ開始しました。本研究室の長い伝統でもある海外留学が、学部生にも受け継がれていることは頼もしいかぎりです。

2013年4月には、3名の学生が進学してきました（田村黎衣さん、橋本隆君、廻康輔君）。いずれも教職志望の前途有望な学生さんです。

研究室の年中行事としては、4月「進学式（専門分野決定式）」、「進学生歓迎コンパ」、5月、11月に「卒論構想発表会」、8月に「オープンキャンパス」、9

月「進学ガイダンス」、12月に「九州史学会」が行われ、2月には「追い出しコンパ」が予定されています。これらの行事は学部3年生を中心に他学年の学生や院生が一緒に行っており、研究室の伝統の継承や連帯感の醸造につながっております。

最後に、皆様方のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

(文責 岡崎敦)

会員近著

エリクソン(古賀秀男訳)『イギリス摂政時代の肖像 ジョージ四世と激動の日々』、ミネルヴァ書房、二〇一三年

野村達朗『アメリカ労働民衆の歴史 働く人びとの物語』、ミネルヴァ書房、二〇一三年

ハーフ(星乃治彦、熊野直樹他訳)『ナチのプロパガンダとアラブ世界』、岩波書店、二〇一三年

星乃治彦他編『地域が語る世界史』、法律文化社、二〇一三年